

# 卒業生からのメッセージ

## —住宅業界新入生より—

北海道セキスイハイム株式会社 後藤 真弓

### 1. はじめに

北海道職業能力開発大学の建築施工システム技術科を卒業して、もう2年が経ちました。平成14年3月に卒業後、北海道セキスイハイム(株)に入社し、もう2年が経ったといっても、まだまだ仕事のなかでわからないことや、とまどうことがあり、毎日を試行錯誤しながら生活しています。私たち卒業生は、北海道ポリテクカレッジが短大から大学校（専門課程2年+応用課程2年）へと移り変わったときの一期生でもあったためか、実習を中心としたカリキュラムでした。1・2年目ではデザイン・建築史に心を躍らせ、構造計算に心を悩ませながら過ごした後、3・4年目の2年間では型枠製作やコンクリート打設、鉄骨溶接に木造軸組工法の建築から、VE案の起案や実行までの建築一連作業を学びました。そのため毎日が体力勝負にもかかわらず、レポート・卒業研究にも力を注ぐという日々でした。しかしながらも、そんな日々で疲れることなく、休みの日や夏休みなどには海で焼肉、車で道内旅行などとにかく外に出て全力で遊びまわっていました。今でも、何かあればみんなが駆けつけ集まって騒ぐ気持ちは変わっておらず、少し変わったのは話す建築業界の話が少しだけ詳細な内容になったことくらいでしょうか。そんな私たち卒業生世代は、ようやく「新人」気分が抜けて社会人としての自覚があらわれはじめ、「仕事の流れ・流しかた」を学びはじめたばかりですが、卒業生としてこれから社会へ出るみなさんへ、少しばかりの激励を送りたいと思います。

### 2. 会社業務について

当社は積水化学工業から出資を受けた、住宅メーカーであり、ユニット工法によって工場生産される鉄骨・木造住宅を主として受注・販売等を行っています。土地売買はもちろん、住宅設計・施工・監理から、施主様へのお引渡し後の定期訪問・アフターメンテナンスを行うほか、住宅に付随した外構工事や住宅の改築工事も請け負っています。建設業といっても、ボックスラーメン構造を主体とした当社独自の強い構造であり、工場で住宅の8割近くを生産し現場へ搬送するシステムを構築しているために、入社してから初めて学習した「おさまり」や「寸法」などが多々あり、とまどうことも何度もありました。しかしながら、業務はあふれ出る疑問に立ち止まることなく流れるため、「即学習」が自然と身に付きました。



■ボックスラーメン構造体

外力を1ヵ所に集中させずに柱や梁に分散させ竹のようなしなやかな粘りで大地震になんなく耐えます。

図1 ボックスラーメン構造

### 3. 所属部署と業務について

私が所属している部署は「生産依頼部署」といい、工場にてユニットを製作するために、平面図から部材展開情報を指示し、部材割付図・鉄骨割付図等を製作しています。そのため、建築基礎知識から現場での施工知識や、当社独自の構造ルール等をすべて考慮しながら、図面のチェックや修正・作図を行わなくてはなりません。しかし、入社してから業務はすべて事務所内で行うために、実際に現場を見る機会はほとんどないのが現状です。そこで社内の即戦力として働くために役だったのは、やはり大学で経験した実習や知識でした。大学で経験した実際の現場により近づけた形の施工実習が、平面図面上のみでの「おさまり」の良し悪しや施工精度を容易に想定させることを可能にさせました。また、急速にパソコンが普及し、OA化が進んでいる世の中で、当社も例外なくOA化が進み、事務所内で製図用のドラフターやテンプレートはその姿を消していきました。

そして新たな製図手段となったCADは、必要最低限の技術となりつつあります。当社では独自に開発されたCADが導入されておりますが、施工業者との情報交換等には共通化されたデータが必要なために、一般に建築業界で普及しているCADについても使用されています。CADによる作図の速さによって業務処理速度が縮まることが大半といえるので、学校でCADに触れる機会をつくることは、非常に重要な点になると思います。



写真1 工場全体風景

### 4. 住宅業界の流れ

さて、前文にてOA化の急速浸透の話題になりましたが、それに合わせるように住宅業界でも、またその他の業界でも重視されるようになったものがあります。

#### ① コンプライアンス

「コンプライアンス」とは一般に「法令遵守」と訳されますが、当社では「ルールを守ること」の意で用いています。この守るべき「ルール」には、法律や条例はもちろん、社内規定や社会規範さらには常識をも含みます。そのため内容は多岐にわたっています。少し具体的にいうと、近年では、あたりまえとなっているセクシャルハラスメントの禁止や安全な製品の提供のほか、環境保全、各種業法の遵守もあります。そしてOA化の進みにより重要視されてきているのが「情報システムの適切な使用」、「企業秘密の管理」、「個人情報の保護」等です。社内だけではなく、社外にも電子データのみでの情報交換や情報保存が増加したために、情報保護が困難かつ複雑化してきているのです。当社では特に、施主様の個人情報が細部にまで到るために、顧客情報保護の徹底には特に力を入れて取り組んでいます。

#### ② ISO14000取得

生産管理を主とした、ISO9000シリーズの取得のほかに、近年各業界にて取得がさかんに行われているのが、ISO14000シリーズです。

14000シリーズは環境を重視した制度であり、事務所内のゴミの分別から始まり、施工現場で発生する廃棄物の削減や分別・適正処理、工場内でのゴミ削減などの取り組みを行っています。また、「長寿命のタイル外壁を採用し建物の寿命を長くしていく」、「太陽光パネル搭載による創エネルギーの提案を行う」など、環境にやさしい住宅建築をすすめていくことを当社のテーマとして活動しています。

特に近年力を入れ活動しているものには、生産から

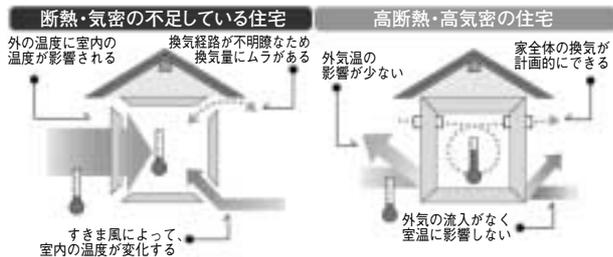


図2 高気密・高断熱による冷暖房エネルギーの削減

新築現場までの「ゼロエミッション化」の実現です。

「ゼロエミッション」とは生産活動の結果、排出される廃棄物をゼロにして、循環型産業システムの構築を目指そうという国際国連大学が提唱している構想のことです。具体的には、A社の生産工程から排出される廃棄物がB社の原材料になり、B社の出す廃棄物がC社の原材料になる……といった産業連鎖をつくることで、資源の完全循環型の生産システムを構築し、廃棄物をゼロにしようというものです。

「ゼロエミッション」が打ち出された背景を少し説明しましょう。

大量生産、大量消費、大量廃棄の経済システムは空前の物的豊かさをもたらしました。50年前と比較すると私たちの生活はずいぶん快適で豊かになっています。家庭を見渡しても電気炊飯器、電気洗濯機、電気冷蔵庫、カラーテレビ、クーラー、自動車などが一般家庭に入っています。こうした快適で豊かな生活は大量生産、大量消費の経済システムによって実現したものです。しかし、大量生産、大量消費の経済システムでは持続可能な発展が難しくなっていることも事実です。資源は無限ではないし、大量生産、大量消費が地球環境を破壊して、地球温暖化という問題を引き起こし、大量廃棄によってゴミの処分場が飽和して環境破壊が社会問題化するなど、いたるところで大量生産、大量消費、大量廃棄の経済システムの破綻が目だつようになってきました。これからの経営は、資源は有限であり、劣化する地球ということを前提にしなければならなくなっています。そのためには資源循環型の社会を構築していくことが求められるのです。循環型社会の実現に向けて法的規制も今後さらに強まる見通しにあります。

当社ではこの取り組みを1998年度から計画し、生産工場では2001年度に100%実現、新築現場については2002年度に100%実現することができました。

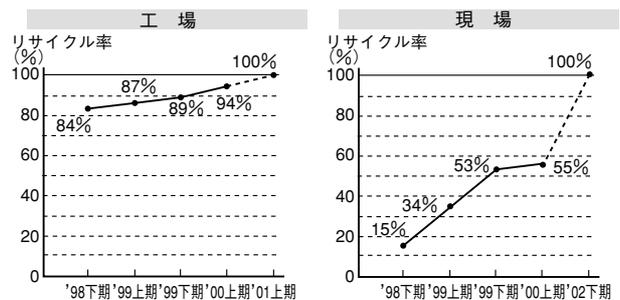


図3 リサイクル率推移

「生産工場から新築現場まで、すべての廃棄物を1つ残らず再資源化する」ことをテーマとし、

- 1) 発生抑制 (Reduce)
- 2) 再利用 (Reuse)
- 3) 再生利用 (Recycle)

→再資源率100%を実行しています。

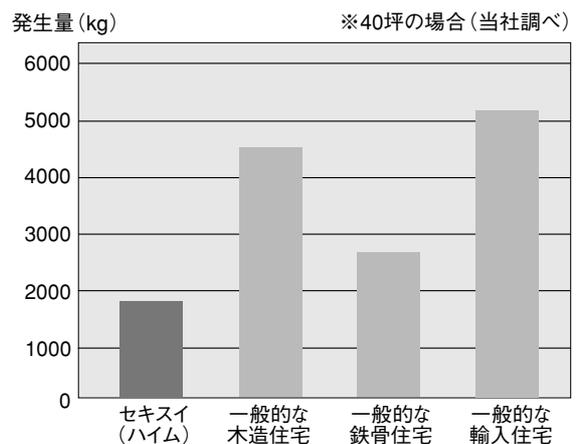


図4 新築現場で発生する廃棄物量

図4：ほとんどの設備や部材は工場に取り付け施工を完了。ゴミやくずを出しやすい現場取り付けを徹底的に排除しています。

写真2：計画設計で、無駄のない生産体制は資源を有効に活用する方法であるばかりか、建築コストの軽減というメリットもあります。



写真2 工場での施工風景

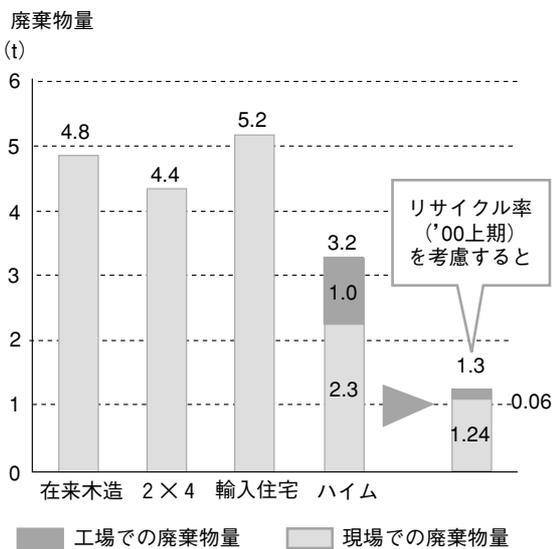


図5 工法別廃棄物量比較 (40坪)

理想的なネットワーク



図6 ゼロエミッションネットワーク

## 5. 社会人になって

社会人になってすぐに環境に慣れることのできる人はなかなかいません。会社に入社したばかりのころは、大きく変化した生活環境に対応することだけで精いっぱいになることも少なくありません。しかし、入社後に行われる研修や、先輩や上司から受ける教えが後にとても重要になることばかりなのです。研修は学校の授業に似ていて、ついつい受身になりがちなこともあります。けれども研修こそ積極的に質問をなげかけ、会社理念や業務の流れを頭の片隅に記憶させる良いチャンスなのです。研修が終わり、業務に従事することになると質問できる時間はどうしても限られてきます。

また、業務を行ううえで学んでほしいことにあられるものに、「業務の流れ」があります。自分が従事している業務にはほかのどの業務がかかわっているのか把握することで、業務の円滑化やミスの未然防止をはかることができます。ただ与えられた仕事を淡々とこなすのではなく、なぜ必要な作業なのか、どこを改善したらよいのか常に考えながら業務をこなしていくことが大切だと思います。

そして、会社内では業務に従事することのみがすべてではありません。社内や社外へと交流を広げていくことが大切だと思います。さまざまな人と交流を持つことで、自分の視野や考え方が広がっていき、新しい分野や新しい技術などに触れる機会ができると思います。

最後に、社会人になる準備をしているみなさんへ。

学生時代に学んだ知識のなかで、無駄になるものは何一つありません。学校で一つ一つ全力で学んだことが、社会に出て初めて生きてくるものなのです。基本がなければ、すべてが成り立たないのです。学生時代はあっという間に過ぎ去ってしまうものですが、毎日大切にそして精いっぱい過ごしてほしいです。

私もまだまだ社会人として一人前ではないですが、この少ない経験でも参考にしてもらえればうれしく思います。